

防災対策

青木

照美議員



青木 防災行政無線の聞こえない地区があるが、整備計画は。

総務課長 平成21年度に防災行政無線の更新基本設計委託業務の際に放送音声等が聞こえるかどうか調査を行っており、聞こえない区域については、平成25年度〜平成27年度の更新整備時に屋外拡声子局の増設にて対応する計画としております。

青木 昼の時報を復活できないか。

総務課長 以前から防災行政無線については、いろいろな意見があります。市の人口も増え、多様な生活形態がある中で、防災行政無線のあり方を再検討する時期だと判断し、昨年度、合志市生活安全推進協議会で審議し、お昼のチャイムを取りやめました。チャイムを取りやめたあと、鳴らしてほしい等のご意見がありましたので、今年度の合志市生活安全推進協議会に報告することとしております。

青木 西沖住宅付近、及び御代志、大池地区の排水計画は。

建設課長 西沖住宅付近の永熊本線では、大雨時に冠水による車両災害

も発生しており、応急処理として地下浸透枳4基を設置したが、今後、恒久的な排水工事が必要と考えている。御代志、大池地区の雨水排水計画については、調整池の設置に向けて現在水道局で計画が進められている。今後、建設課と水道局で連携しながら対応していきたい。



西沖住宅付近冠水状況

青木 上下水道の危機管理は十分か。

上下水道課長 水道局が管理する水源施設等は25箇所あり、各施設と水道局内テレメーター室をNTTの専用回線で結ぶ遠方監視システムと週一回の職員による巡回点検により監視を行っている。今後、想定外の事件、事故等の災害時においては、「水道局災害対策マニュアル」によって、初動活動、復旧対策等を周知徹底したい。

志(じ)の合(あ)わせで、来年は千二百周年!?

上田 欣也議員



上田 「こうし」という地名に「合志」という漢字が使われるようになって来年で千三百年になる。これを合志市の歴史を周知する機会に。

生涯学習課長 年代的には諸説あるが意義のあること。大きなイベントはできないが、今後アピールしたい。

性向上と合志市のPRに、独自デザインのパスカードの発行を検討してもいいのではないかと。また合志市舎南側の駐車場には緑化ブロックが使われているが、かなりくたびれた状態である。合志市特産品認証の芝苗と堆肥を利用して試験施工することで、地球温暖化防止とブランドのPRに努めてはどうか。

上田 各学校に設置されている太陽光発電設備の発電量は。またその教育効果は。

政策部長 施工後の維持管理等に経費がかかるので見合わせたい。

学校教育課長 子どもたちの学習に貢献するとともに、昨年度は224万円が市の収入になっている。

上田 合志市立図書館の特に優れていると考えられるところは。

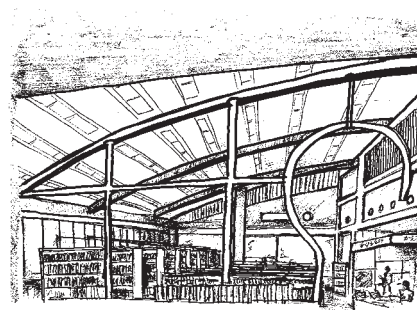
上田 昨年はごみ減量化計画の初年度だったが、目標は達成したか。総合計画で近隣市町と比べて安価なごみ袋は見直しを検討すべきとある。

教育部長 貸出冊数だけではなく、年間のべ3百人を超えるボランティアの活動に支えられた読書推進活動は自慢できる。

環境衛生課長 人口の増加等の影響で対前年比微増している。ごみ袋料金は実際におおよそ安価である。

合志市の教育の重要な拠点として位置付けたい。

上田 なぜ、ごみ減量をしなければならぬのかの根本に立ち返った啓発を心掛けてほしい。レターバス等地域公共交通機関の利用者が飛躍的に伸びている。熊本都市圏のICカード導入に時間がかかるなら、利便



西合志図書館

急がれる待機児童対策

神田 公司議員



神田 未就学児は、11月の段階で4023人、5月1日の段階で4152名と増えている。10年、15年後を展望しながらまちづくりをやらなければならぬ。

教育部長 人口増加に伴う市の課題については、学校の大規模化のみならず子育て、介護等の福祉の分野、ごみの減量化等に伴う環境の問題等々、多方面にわたり影響する。まちづくり戦略室を事務局として、関係各課の課長、班長で組織する庁内検討委員会を5月に開催した。

保育)の受け入れ可能な施設の検討を進めている。できる限り早急に対応していきたい。

神田 少なくともグループ型の保育ママ(家庭的保育)など、多様な保育施策を年度途中で始めるのか。

健康福祉部長 保育ママ(家庭的保育)については、少し何グループかやっていただけのものなのかということ。できる限り段階的には入れるところから精一杯やっていきたい。

神田 待機児童の現状と対策は。

子育て支援課長 5月末現在で保育所に入所できていない児童数は129名。6月1日現在で保育所に入所している児童数は1880名。現在の住宅開発状況を考えると、今後保育所の需要は増加すると考えている。保育所を新設するには最低でも2、3年かかるので、早急な対策を、現在の状況を緩和するためには、早急な対策が必要である。その対策として、グループ型の保育ママ(家庭的



4月に開園した「このみ坂保育園」

「じじいの体温計」プロジェクト

松井美津子議員



松井 自治体クラウドは、システム運用費の削減、業務の効率化、セキュリティの向上、災害に強い基盤の構築、「ネット合併」と言われているクラウド参画について何う。

企画課長 個別のASP事業で、コスト削減と事務の効率化に取り組んでいる。クラウド事業の参加は難しい。

松井 「補装具交付事業の中に、「足こぎ車イス」が入っていないが、今後、市民の需要があると思うが。

福祉課長 特例補装具として福祉総合相談所の判定が認められれば支給ができる。

松井 地域包括支援センターは高齢者や、その家族などが事業の内容をイメージしにくいので、「高齢者何でも相談室」のような愛称を考えてはいかがでしょうか。

高齢者支援課長 「地域包括支援センター」の業務が市民にわかりやすいように親しみやすい「愛称」を検討したい。



松井 アレルギー疾患に対する取り組みガイドラインで、エビペンの使い方について。

教育部長 ガイドラインに基づき研修をおこなう。

松井 飲酒運転の予防に向けての取り組みについて。

総務課長 深酒しないこと。平日は午後10時には、飲酒をやめることを努力義務としている。

松井 心の健康チェックをゲーム感覚でできる「じじいの体温計」を取り入れることで、うつ病や、自殺の予防対策にも効果があると思うが考えを伺う。

健康づくり推進課長 前向きに検討します。